

令和4年12月20日
横浜市立山内小学校
校長 佐藤 正淳
児童いじめ防止委員会

地区懇談会・山内小児童いじめ防止委員会の報告

日頃より本校の教育活動に多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございます。

11月11日（金）に、3年生以上のクラス代表、山内中学校の代表生徒、地域の皆様、横浜市教育委員会の方、青葉区役所の方、青葉少年補導員、主任児童委員、学校運営協議委員、PTA、山内小・中の教職員が本校体育館に集まり、「地区懇談会・山内小児童いじめ防止委員会」を行いました。今回は、学校生活でありそうな場面を取り上げ、グループごとの話し合いを行いました。また、初めて山内小学校の児童がファシリテーターを務めました。

話し合いについてご報告させていただきます。

【テーマ】 「だれにとっても居心地のよい学校づくり」

【参加者】 3年生以上クラス代表児童36名 山内中学校生徒代表7名
横浜市教育委員会の方 青葉少年補導員 地域の皆様
主任児童委員 学校運営協議委員 PTA役員・会員 教職員（小中）

【内 容】 ①「山内中学校の様子について」
②「山内小学校の様子について」
③「いじめの場面について考えよう」

【報 告】

①「山内中学校の様子について」

居心地の良い学校づくりをするための5つの取組

○よかったよ報告

・各委員会のよかった所を全校生徒に書いて

もらい、毎月集計して各委員に渡す。

○学年レク、学年集会

○あいさつ運動

○いじめアンケート

○学校行事

※今後、全校生徒の意見や要望が生徒会本部に届きやすくするための「目安箱」を設置する予定。

②「山内小学校の様子について」

○いじめ防止委員会

- 学校、学年、クラスの状況を毎月話し合う。
→出てきた問題の解決策を話し合い、全校に呼びかける。
- 各クラスでの取り組みを決める。→代表委員会で決定
- あったかハートディで行う YP を決める。

○今年度の各クラスでの取組

- 「あったかふせん」・「みんなで遊ぶ日」・「あいさつ運動」

○YP (横浜プログラム) の実施 (月に1回)



※これらの取組を通し、いじめを未然に防ぐことで、誰にとっても居心地のよい小学校にしていきたい。

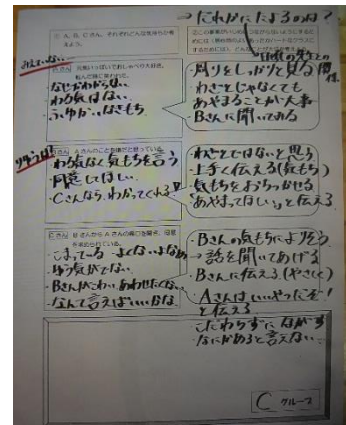
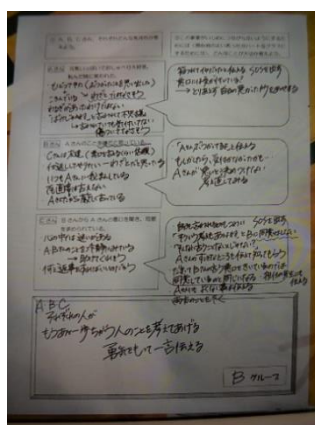
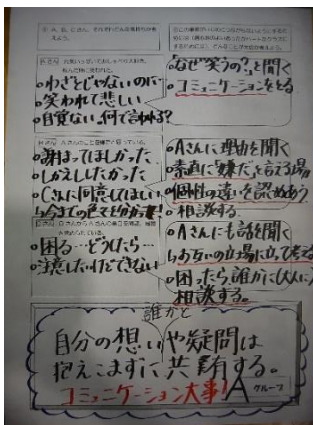
③「いじめの場面について考えよう」

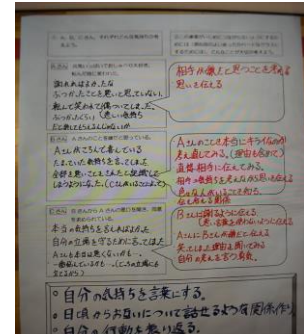
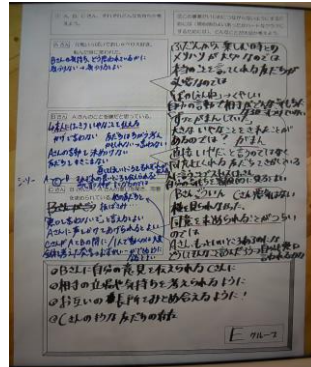
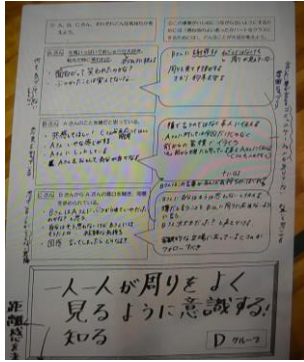
今回の話し合いのテーマは、「いじめの場面について考えよう」でした。まず、事例に出てくるAさん、Bさん、Cさんの気持ちを考えました。次にそれぞれの立場で、どうすればいじめにつながらないかを話し合いました。

事例

Aさんは、いつも元気いっぱい、おしゃべりが大好きな子です。ある日の中休み、Bさんが校庭で遊んでいると、走ってきたAさんがぶつかりました。Aさんはそのまま通り過ぎてしまいました。Bさんは近くにいたCさんに「Aさん、わざとぶつかった。本当に嫌なんだけど。」と言いました。Cさんは、(わざとじゃないと思うんだけどな、気が付かなかっただんじゃないかな) と思いましたが、「そうだね。」と答えました。Bさんの話はまだ続きます。「そもそもAさんて、いつもしゃべっててうるさいし、自分中心でわがままだと思わない? ずっと我慢して仲良くしてたけど、本当に嫌。」Cさんは黙って話を聞いています。そこに再びAさんが走って戻ってきて、何かにつまずき転んでしまいました。Bさんはクスクス笑いながら、こっそり「ばかじゃんね」とCさんに言いました。

各グループの話し合いから





それぞれの気持ち

- Aさん
 - ・ちょっとぶつかったかも。
 - ・何でBさん笑うの？
- Bさん
 - ・Aさん、嫌だ。
 - ・ぶつからないでよ。
- Cさん
 - ・私はAさんのこと嫌じゃないんだけど。
 - ・悪口聞きたくないな。

いじめにつながらないようにするためには

- Aさん
 - ・ぶつかったら謝る。
 - ・何で笑ったか聞く。
- Bさん
 - ・ぶつかったよと伝える。
 - ・Cさんに言わずにAさんに直接言う。
- Cさん
 - ・直接言ったらと促す。
 - Bさんが直接言えない子の場合、一緒にいこうかと伝える。
 - ・「わざとじゃないと思うよ」と自分の気持ちを伝える。

児童の感想

- 話し合うことで自分の考えが深まった。
- まずは本人に伝えることが大切だと分かった。
- いじめの怖さを改めて考えることができた。
- いじめが一つでもあると、人々は苦しくなる。
- 「ごめんね。」という言葉があるとうまくいく。
- いいところをお互いに伝えるとよい。
- 人によって感じ方は違う。
- Cさんの立場になったことがあり、そのときは悩んだ。今回の話合いでどうすればよいか学んだ。
- 小学校3年生から大人までたくさんの意見を聞くことができてよかった。
- 相手のことを考えることが大切だと思った。
- 先生や子供、いろいろな立場の方々と話合いができて、さらにABCのそれぞれの立場に立って考えることで、心が広くなった気がする。
- このような会に積極的に参加したい。
- 今回学んだことをみんなにも広げたい。
- みんなで相談できたのがよかった。
- いじめをしているところを見かけたら、止めたい。自分では止められなかったら大人に頼る。
- いじめをなくしていきたい。
- みんなで意見を言い合う中で、たくさんの考え方にふれ、自分の考え方が広がった。
- 「いじめ」は難しいものだが、これからも「いじめ」についてしっかり考えたい。
- いじめは、自分が「そうじゃない」と思っている、相手が「された。」と思ったらいじめ。いじめは、身近にあり、いつでも、どこでも、誰にでも起きる。小さいいじめが大きい

ファシリテーターをやってみての感想

- 緊張したけど、周りの大人の方々が優しく見守ってくれたので安心できた。
- 困っている人を助けられなかった。
- なかなかうまくいかなかったけど、よい経験になった。
- しっかりと司会・進行をした。
- 今回の経験を生かし、クラスで話合いをするときも積極的に発言したり、説明したり、司会として堂々と話したりできるようになりたい。
- みんなが意見をたくさん出してくれた。
- 自分が困っているときに先生がサポートしてくれた。
- 3年生でもたくさん意見が言えていてすごいなと思った。
- 中学生の方は、はっきりした声でたくさん発表してくれた。

中学生の感想

- 小学生から大人まで、私たち中学生だけではでてこない意見がたくさんあり、とても新鮮でした。居心地のよい学校にするにはまだまだ課題がたくさんありますが、この話し合いで得たことを基に、少しずつ良い学校づくりをしていきたいです。
- 自分（中学生だけ）では考えつかないような意見がたくさん出てきた。ここで学んだことを学校でも広めていきたい。
- 色々な立場の人が一つのテーマについて話し合うことで、異なった考えを聞くことができ良かった。中学生の自分も考えないような意見を小学生が話していたし、大人はこのような状況をどうやって対処するのか、考えるのか聞いてためになりました。このような活動があることで、小学校も中学校も良い方向に向かってきていると思いました。

来賓の方々の感想

- いじめを防ぐための有意義な会だった。
- いじめについて一人ひとりが考えること自体でいじめは確実に減ると思う。
- 小学校のうちに、児童、先生、保護者、地域の方々、みんなで話し合うこと考えることはとても大切で素晴らしいことだと感じた。
- 児童がファシリテーターをしたことがとても良かった。
- いろいろな立場で思うことが違ってくるんだなと思った。
- 一人ひとりが違うということに気付くことが大切だと思った。
- 感じ方、考え方が違うということに気付いて、自分の気持ちを相手に伝える力をつけていければいいなと思った。
- 「伝える」というのが難しくていじめにつながるのだと改めて思った。「言えない」人のための「伝える」ツールはどのようなものがあるかなと考えている。
- いろんな立場から考えを話すこと、そのいろんな考えを受け入れること、そして一つの考えにしていくこと…。今回やったこの話し合いのあたたかい雰囲気、いじめを防止する第一歩でありゴールなんだと思った。
- 3年生で初めての子がなかなかしゃべれなかったけれど、先生のリードで意見をひろうことができ良かった。
- 小学生は学年を追うごとに、中学生はさらに少し大人の見方を持って意見が言えるのが素晴らしい。
- 大人の前で自分の考えや思ったことを口にするのは大変だと思うが、その力をぜひ伸ばしてほしい。
- よい取り組みだと思う。今後も続けてほしい。

【おわりに】

「地区懇談会・山内小児童いじめ防止委員会」の内容を校内全体でも共有し合う為、学年ごと、クラスごとに今回のテーマについて話し合いの場をもちました。一人ひとりが相手に関心を持ち、理解し合うことで、「いじめを未然に防ぐことができる山内小学校」、「居心地のよい山内小学校」、「あったかハートな山内小学校」を作り上げていきたいと思えます。皆様からいただいた貴重なご意見は、今後の指導の参考にさせていただきます。ありがとうございました。